



題 字  
初代会長 松野 盛吉  
定 価 1部 48円  
(購読料は年会費に含む)

発行人  
〒010-0951  
秋田市山王四丁目1番2号  
秋田地方総合庁舎内  
秋田県消防協会  
会長 中田 潤  
電話 018-867-7320  
FAX 018-863-5910  
<http://www.shoubou-akita.or.jp>  
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷  
〒010-0951  
秋田市山王7丁目5-29  
株式会社 松原印刷社  
電話 018-862-8760  
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

### 年頭の ごあいさつ



一般財団法人秋田県消防協会  
会長 中田 潤



平成二九年の新春を迎え、県民の皆様並びに消防職・団員はじめ消防関係者の皆様に謹んでごあいさつを申し上げます。

消防職・団員及び消防関係者の皆様には、日ごろから地域住民の生命・財産をあらゆる災害から守るため、日夜献身的に活動され、様々な努力をなされておりますことに心から感謝と敬意を表します。

昨年を振り返ってみますと、六月三日には第二二回全国女性消防団員活性化大会が札幌市において開催され、本県からもこれまでの大会では最も多い、三六名の女性団員が参加しました。今後の活動に繋げていく大変有意義な大会でありました。

六月一八日、能代市文化会館において開催しました第六九回秋田県消防大会には、県内各地域から約七五

平成二十八年度全国統一防火標語  
消しましょう  
その火その時  
その場所で

〇名の消防職・団員が参加、今回で一二回目となる意見発表会では、各支部から選出された消防団歴三〇年のベテランから一年の団員まで、それぞれこれからの消防活動に対する提言等を発表しました。

九月二日には、台風の影響で中止しました第五三回秋田県消防操法大会に替え、「第二五回全国消防操法大会」及び「第二三回全国女性消防操法大会」の秋田県代表選考会として開催しました。

一〇月一四日、「第二五回全国消防操法大会」が長野市において開催され、本県代表の横手市山内消防団は小型ポンプ操法の部に出場、健闘の結果、優良賞(一〇位)を受賞しました。

また、この大会には地元消防団をはじめ、大仙市や由利本荘市の消防団など大勢の方々から応援に駆け付けていただきました。

さて、本県における昨年の災害の発生状況であります。火災は、皆様の懸命なるご尽力にも関わらず、多くの方が尊い命を失っております。

更には、大雨・暴風等の自然災害により、建物や農林施設などに大きな被害をもたらしました。

こうした中であって、安心・安全に寄せる地域住民の期待はより大きくなっており、私たち消防人は、その負託に応えられるよう、なお一層の精進を重ねていく必要があると決意を新たにしているところであります。

団員の減少のほか、高齢化やサラリーマン化の進行など消防団を取り巻く厳しい環境の中で、協会といたしましても微力ながら、各事業に全力で取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

また、本年九月三〇日には、「第二三回全国女性消防操法大会」が初めての地方大会として秋田市において開催されます。関係各位の協力のもと準備を進めておりますが、今後、皆様からもご支援・ご協力をいただくことになると思われますので、何卒よろしく願います。



結びに、県民の皆様並びに消防関係者のご健勝と、本年が厄災のない良い年でありませうお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

# 平成二九年の 新春を迎えて



秋田県知事  
佐竹 敬久



平成二九年の新春を迎えるに当たり、県内消防関係者の皆様に謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。皆様には、

平素から地域の安全安心を守るため、昼夜を分かたず御尽力いただいております。日頃の御労苦に対し、心から敬意を表しますとともに深く感謝申し上げます。

さて、昨年も県内外でさまざまな災害がありました。四月に発生した熊本地震では、一五〇名の方が犠牲になる大災害となつたほか、建物でも多くの被害がありました。八月から九月にかけては台風が相次いで我が国に上陸し、観測史上初めて東北地方の太平洋側から上陸した台風一〇号は、岩手県や北海道などに大雨や暴風を持たらし、死傷者が多数発生しました。県内でも、一〇月の大雨により三種町や能代市で住家の床上浸水があつたほか、県内各地で農作物や道路などに被害がありました。

このように多様な災害が各地で発生し、顕発化激甚化する中、消防機関の活動に寄せられる期待は、ますます高まっております。県としても、市町村や消防本部等関係機関の皆様と連携し、消防・防災体制や救急救命体制の充実強化など、総合的な防災力向上のための各種施策を、引き続き積極的に推進してまいりたいと考えております。

なお、本年九月には、全国女性消防操法大会が秋田市において開催されます。県としては、おもてなしの心で来場者をお迎えすることに加え、消防団員数が減少し、地域防災力の低下が懸念される中、県内外からの来場者に対して、消防団活動の意義や重要性をアピールする絶好の機会ととらえており、県内の消防関係者の皆様も、こうした趣旨を踏まえた大会の運営や盛り上げにご協力くださるようお願いいたします。

結びに、本年が災害のない平穏な一年でありますことと、皆様方の一層の御健勝御活躍を祈念いたします。年頭のあいさつといたします。

## 新年の 御挨拶



秋田県議会議長  
渋谷 正敏



平成二九年の輝かしい新春を迎え、消防関係者の皆様に謹んで御挨拶を申し上げます。

皆様には、常日頃より防災の最前線にあつて、県民の生命と財産を守るため、昼夜の別なく献身的に御尽力いただいていることに對しまして、県議会を代表し心から敬意を表するとともに深く感謝申し上げます。

昨年の県内を振り返りますと、四月中旬に発生した暴風被害は全県域に及び、各地で屋根などの剝離や破損が相次ぎ、多くのけが人が出たほか、農作物への被害も甚大でありました。また、一〇月には大雨による床上・床下の浸水被害、土砂崩れやがけ崩れが発生し、農業用水路の決壊やため池の堤体崩落など大きな農業被害がありました。さらには、住宅火災でも多くの方が亡くなられたほか、大規模な工場火災により県内産業に大きな影響を与えた年でもありました。

一方、国内を見てみますと、昨年四月に発生した熊本地震では、震度七の前震に続き震度七の本震が連続するなど、これまでに経験のない地震であったことから被害も相当なものと

となりました。今なお、大きな爪痕が残っており、一刻も早い生活再建が望まれるところであります。また、相次ぐ台風による記録的な大雨によって東日本から北日本を中心に、深刻な人的・物的被害をもたらしました。

災害は年を追うごとに大規模化・顕発化しており、安全・安心の担い手として、消防の果たす役割はますます大きくなってまいります。消防本部や消防団を中心に地域が主体となつた消防防災体制をより一層強化する必要がありますが、人口減少社会にあつて、消防団員の確保は一層困難となつてきております。そうした中にあつて、大館市では大学生による機能別消防団が創設され、新たな担い手として活動しております。このような多様な主体の参加は大変重要であり、今後の地域防災力の充実強化を期待いたします。

皆様におかれましては、地域住民が安心して暮らせる安全な地域づくりのため、一層の御精進と御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、皆様のますますの御健勝と、本年が災害のない平穏な年でありますことを御祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。

# 年頭の辞



消防庁長官

青木 信之



平成二九年の新春を迎えるに当たり、謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

地域の安心・安全を守るため、平素から消防防災活動や消防関係団体業務などにご尽力いただいている全国の消防関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、四月に発生した熊本地震では、観測史上初となる震度七の地震が二度発生し、熊本県を中心とした広い範囲で建物倒壊や土砂災害が多数発生し、多くの尊い人命と財産が失われました。

また、八月には、一連の台風等による大雨被害が各地で発生し、特に台風第一〇号の影響に伴う大雨により岩手県や北海道などの各地で河川が氾濫し、多くの人的被害や住家被害が発生しました。

これらの災害現場では、被災地の消防本部や地元消防団のほかに、県内消防応援隊や緊急消防援助隊が総力を挙げて消火、救急・救助活動、捜索活動等に従事し、多くの人命を救助していただきました。ここに、

改めて皆さんの御活躍に敬意を表しますとともに、心から御礼申し上げます。

今後発生が危惧される南海トラフ地震等の大規模災害に備え、消防庁では、国民の皆様が引き続き安心して暮らせるように、緊急消防援助隊及び常備消防力の充実強化はもとより、地域防災力の中核となる消防団及び自主防災組織等の更なる充実強化、火災予防対策の推進、消防防災分野における女性の活躍促進、防災情報の伝達体制の整備など、消防防災行政の一層の推進に取り組んでまいります。

あわせて、二〇二〇年開催予定の東京オリンピック・パラリンピック競技大会等、国家的な大規模イベント開催時における危機管理体制の強化や外国人来訪者への対応等の安心・安全対策につきましても、計画的に推進してまいります。

また、東日本大震災や熊本地震等の被災地では、依然として厳しい状況の中で消防防災活動を強いられる消防本部もあります。被災地における消防防災体制の充実強化につきましても引き続き推進してまいります。

皆様方におかれましては、我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願いいたします。

願ひ申し上げます。

皆様のますますの御健勝と御発展を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

## 変化の時代の日本消防



公益財団法人日本消防協会  
会長 秋本 敏文



謹んで新春のお慶びを申し上げますとともに、日夜、地域の安全のため御尽力をいただいている秋田県内の消防関係の方々に心から敬意を表し、感謝申し上げます。

さて、消防をとりまく諸情勢は、このところ大きく変化していると思われまふ。昨年は熊本地震、鳥取地震など思いがけない地震がありました。これまでと異なるコースの台風や局地的な豪雨もあり、大きな被害が発生しています。地球温暖化が問題にされていますが、やっぱり災害の様子が変わっていると考えざるを得ないのでしょうか。インフラ施設の老朽化による思いがけない事故もあります。消防関係者としては、「いつでも、どこでも、何でもある」位の覚悟をせざるを得ないように思われます。また、消防活動も変化していま

す。火災発生件数こそ減少してはいますが、林野火災などを含めて火災関係の活動はこれからも重要です。特に増加しているのは、救急、救助です。高齢化、交通事故、インフラ施設の老朽化などさまざまな事情でこの分野の出場件数が増加しています。これは世界共通の傾向です。

一方、社会も大きく変化し、人口減少、少子高齢化、被雇用者の増加、コミュニティ意識の希薄化等が進んでいます。これらは、消防団員の確保を一層困難にする等の影響があります。こうしたことも背景に、東日本大震災などの体験から新しい法律が制定され、地域にあつては消防団が中心になつて、地域の皆さんの総力を結集する地域防災力の充実強化を進めることとされました。これは日本消防の新たな展開だと思ひますが、そこで益々重要になるのは、消防と地域との結びつきの強化だと思ひます。

新しい年は、このような様々な変化をのりこえて、国民の皆さんの安全をより確かなものにできるよう、消防関係の皆様と一体となつてさらに努力してまいりたいと思ひます。現在改築を準備しています新しい日本消防会館はこのような面でもお役に立てるようにしなければなりません。今年もよろしくお願いいたします。

# 年頭の ごあいさつ



秋田県市長会会長  
秋田市長  
穂積 志



全県消防関係者の皆様に、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様には、郷土愛護の精神と旺盛な責任の下、地域の平和を守るため、日夜、消防技術力の向上と任務遂行に全力で取り組んでおられますことに、深く敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、気象庁震度階級では最も大きい震度七を二度も記録しました熊本地震や、東北地方の太平洋側に統計以来初めて上陸し甚大な被害をもたらしました台風一〇号等、地震や台風による災害が日本の各地で発生しており、また爆弾低気圧による大雪・暴風雨、ゲリラ豪雨や竜巻等も頻発するなど、災害の態様も多様化、大規模化してきております。

本県におきましても、暴風や台風により各地に大きな被害が発生しておりますが、こうした中であって、地域に住む方々の生命、身体、財産を守る消防の責務と役割は、一段と重きを増しております。加えて人口

減少や過疎化に直面します秋田県においては、消防の担い手不足やコミュニティの崩壊が憂慮されているところであり、安全・安心を守り抜く消防の対応力も、これまで以上に向上させていかなければなりません。「何ができていれば被害を避けられたのか」、常に住民の目線に立つたきめ細やかな取組みを着実に進めていく必要があります。

幸いにして、皆様方におかれましては、日頃の鍛錬はもとより、地域住民への防火・防災意識の啓発等に弛まぬ努力を重ねられ、様々な事態に即応できる体制を構築されておられますことは、誠に心強く、大きな安心を覚えるところであります。

しかしながら、時々刻々と変化する社会・自然環境のもと、更なる住民の安寧を確保するため、現状に座して留まることなく、地域防災の要として、一層のご精進とご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今年こそは笑顔溢れる一年でありますことを願い、関係各位のご健勝とご発展を祈念いたします。ごあいさつといたします。

## 平成二九年の 新春を迎えて



秋田県消防長会  
会長 佐藤 好幸



平成二九年の輝かしい新春を迎え、県内の消防関係者の皆様と謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様には、日頃から各種災害から地域住民の生命、身体、財産を守るため、日夜献身的にご尽力されておられますことに、改めまして心から感謝と敬意を表します。

昨年の消防長会各種事業におきましては、開催地の消防関係者の皆様から特段のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年も全国で自然災害が頻発しております。四月に発生した熊本地震では、震度七の地震が二度も起き、熊本県を中心とした広い範囲で建物倒壊や土砂災害により、多くの尊い人命と財産が失われております。また、八月には観測史上初めて東北の太平洋側に上陸した台風一〇号により、岩手県や北海道などの各地で河川が氾濫し、多くの人的被害や住家被害が発生いたしました。

八月の台風禍の際には、国から緊急消防援助隊の出動準備要請が本県に発せられ、県内各消防本部では、ただちに即時出動可能な体制で待機いたしております。その後秋田県隊は出動にはいたりませんが、このように消防には、管轄地域はもろろん県内の広域応援や、時には全

国各地の災害への対応も期待されており、広域災害対応能力の一層の向上を強く感じたところでもあります。

このような中、昨年一〇月に能代市で開催されました緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練は、近隣消防はもとより、警察、自衛隊、海上保安部、医療など多様な機関との連携強化を育む絶好の機会であったことは言うまでもなく、引き続き、地域防災力の中核となる消防団を始め自主防災組織など関連する主体との連携も一層強固にし、地域の総合的な防災力を高めていかなければなりません。

今後本県においては、人口減少や超高齢化、生活様式の多様化などを背景に、高齢者等災害弱者の増加はより顕著なものになってまいります。消防行政は災害の未然防止、人命の安全確保などの目的を達成するため、これら社会環境の変化に応じたきめ細やかな対応が求められており、地域社会における消防の役割はさらに増大してまいります。

従いまして、行政の高度化、専門化に対応できる消防、防災のエキスパートとして、より一層資質の向上を図るべく取り組みを推進してまいります。

結びに、皆様方の益々のご健勝とご多幸、そして本年が平穏な一年であることを祈念いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

# 消防団員の確保対策について討議

## 平成二八年度全県消防団長研修会



平成二八年度全県消防団長研修会が二月八日(木)午後二時から、秋田市中通「イヤタカ」で消防団長など消防関係者六〇名が参加し、開催されました。

研修会では、鹿角市消防団と鹿角広域消防本部による活動事例の報告、「消防団新法制定とこれからの課題」についての講演、そして、「消防団員の確保対策」をテーマに課題討議・意見交換を行いました。

### 活動事例

「市民を守る魅力ある

消防団づくり」

報告者：鹿角市消防団

団 長 児玉 誠喜



児玉 団長

報告者：鹿角広域消防本部

副主幹 児玉 健司



児玉副主幹

### 主な取組事例

- 「市民を守る魅力ある消防団づくり」基本計画(H一九・四)
- ・四カ町村名の付いた分団名称を一連番号制に改める組織改革
- ・女性消防団員の採用
- ・機能別消防団員採用
- ・軽積載車の導入
- ・消防団車両の分署配置による消防本部との共働
- ・出勤手当見直しなどの処遇改善
- ・出勤区分の見直し及び安全管理体制づくり
- ・副団長の事務分掌制：など
- 消防団員の資格取得講習
- 消防団と消防本部のパートナー制度
- 救急救助支援隊
- 鹿角市消防団機能別団員

### 講演

#### 「消防団新法制定とこれからの課題」

講師：元東京消防庁丸の内消防署長

谷口 由美子氏

#### 講演の内容

- 「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の制定
- 消防団の現状
- 消防団が行ってきた活動
- これからの課題
- 今後重点にすべきこと
- 消防団の未来づくり



講師の谷口氏

### 課題討議・意見交換

始めに「消防団員の加入促進に向けた取組について」秋田県総合防災



本多八峰町団長



### 28年度全県消防団長

主な発言は次のとおりでした。  
○機能別団員の出勤状況について  
(服装・学生団員等)

課消防班の宍戸班長から説明がありまして。続いて、草薨秋田県消防協会副会長(大仙市消防団長)の進行により意見交換を行いました。



周防  
由利本荘市団長

進行する草薨副会長



宍戸班長の説明

○報償金制度について



中田能代市団長



佐々木横手市大雄団長

○団員の身分証明書について



菅原横手市平鹿団長



菊池横手市大森団長



金田北秋田市団長



佐々木  
にかほ市団長

○女性消防団員の入団について



佐々木仙北市団長



金子三種町団長

消防 半天・帯・団旗  
優勝旗・ゼッケン  
手拭・タオル・のれん  
旗幕類名入染物専門

## 寺 田 染 工 場

横手市清川町 ☎32-0416

**消防団防災学習・災害  
活動車両が交付される**  
日本消防協会から小坂町消防団に  
対し、消防団防災学習・災害活動車  
両が交付さ  
れ、一二月  
八日(木)中  
田秋田県消  
防協会長か  
ら成田小坂  
町消防団長  
に交付状が  
手渡されま  
した。



トーハツ消防ポンプ  
モリタ自動車ポンプ  
消防被服全般  
秋田県代理店

総合防災設備センター

## 株式会社 高 義 商 会

(営業種目)

- トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服全般
- 火災報知器各種
- 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32  
TEL(0183)(42)2125  
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

## 株式会社 夕 力 吉

秋田県横手市寿町1番28号  
TEL (0182)(32)3880  
FAX (0182)(32)0839

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シバウラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>  
E-mail [ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp)

# 消防団員入団促進 キャンペーン実施中

一月から三月まで

## 消防団・消防団員とは

消防団は、消防本部や消防署と同様に市町村の消防機関の一つです。

消防団員は、本業を持ちながらも「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づいて、地域の安全・安心を確保するために活動する非常勤特別職の地方公務員です。

## 消防団員数は年々減少

本県の消防団員数は、昭和三十一年には三万六千人が在籍していましたが、その後、過疎化・少子高齢化の進行、産業・就業構造の変化等に伴い、年々減少し続け、平成二八年には半数を割り込み約一万七千二百人となっており、地域における消防防災力の低下が懸念されています。

## 入団促進重点推進事項

### (一) 被雇用者の入団促進

現在の消防団員の七〇%超が、会社員などの被雇用者です。消防団活動には事業所の協力が不可欠となっており、より一層、事業所との連携強化を図って、従業員の入団促進を進めていく必要があります。

### (二) 女性の入団促進

消防団員数が減少している中、女性消防団員は増加傾向にあり、本県の女性消防団員数は、平成二八年、三五五名の方が在籍しています。女性消防団員の活動は、火災予防広報、一般家庭や高齢者宅への防火訪問、応急手当の普及啓発活動など多岐にわたっています。

### (三) 大学生等の入団促進

消防団員の高齢化が進む中、若年層の消防団員確保が大きな課題となっています。大学生等(専門学校生

を含む)の若い力を、消防団活動で発揮していただくことは大変有意義なことです。本県では、三三人(平成二八年四月一日現在)の大学生等が消防団で活躍しています。

## 多くの方の消防団入団を期待

消防団は、地域防災の中核的な存在で、地域の安全・安心を確保するために大変重要な組織です。是非、多くの皆様に消防団活動に対する理解を深めていただき、一人でも多くの方に消防団活動に参加いただけることを期待しています。

わたし  
じつは  
消防団員。

あなたの住んでる街のために、  
あなたのチカラをかしてくれませんか。

# 消防団員募集

消防団に関する詳しい情報は <http://www.fdma.go.jp/syobodan/>

総務省消防庁  
消防団員募集センター  
buitbar (国産)

モリタ消防ポンプ  
桜ホース・ソフト吸管  
各種消火器

シバラポンプ  
消防被服一式  
消防機器一式

---

株式会社 能代消防センター  
株式会社 協立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57  
TEL (0185) (52) 6494  
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献！

**消 防**

ポンプ自動車  
小型ポンプ  
ホース

**設 備**

火災報知器  
スプリンクラー  
消火器

## 猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)  
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651

支部情報アラカルト

『男鹿潟上南秋支部消防 団員教養研修会を開催』

平成二八年一月二〇日午後一時より、井川町民体育館において、湖東地区消防本部から職員一名を講師に迎え、教養研修会(二八三名参加)を開催しました。

研修では、『火災防ぎよ(四時間)』について講義があり、建物火災の特性とその消防活動十原則及び筒先配備、フラッシュオーバーの危険性に關しての説明がありました。

また、「消防戦術」を主題に、過去に発生した火災例が動画で紹介され、火災現場での情報検査の重要性、危険兆候の具体例、延焼危険の度合いに於て必要な筒先を配備する等の筒先包囲態勢についても説明がありました。さらに、



燐棟への延焼防止についての具体的な戦術と現場での安全確保についての説明で



の説明で火災現場は絶えず危険と背中合わせで、いかなる状況においても安全管理を怠らざるに活動することが大切であり、自己の安全管理のため、必要な技術を身に付け、感性を養い、それが「絶対に殉職者を出さない」ことに結びつくことを確認しました。



この研修で修得したことが、消防団員のさらなる資質、技術力の向上に繋がるものと考えます。

【情報提供 男鹿潟上南秋支部】

火災の発生状況

速報値

(秋田県総合防災課調べ)

	平成28年		平成27年			同期比較	
	12月	累計	12月	累計	年計	12月	累計
建物	19	191	22	211	211	- 3	-20
林野	0	32	0	34	34	0	- 2
車輛	3	31	4	45	45	- 1	-14
その他	0	56	0	83	83	0	-27
合計	22	310	26	373	373	- 4	-63
死者数	2	22	5	40	40	- 3	-18
負傷者数	4	52	6	86	86	- 2	-34



一般財団法人秋田県消防協会



主 監	副 会	理	副 会
同 (兼) 事務執行理事	同 同	同 同	同 同
査 長	事	事	長 長
石 佐 高 佐 佐 成 佐 森 佐 児 一 佐 周 近 高 海 成 草 中	山 藤 橋 々 々 田 藤 川 藤 玉 関 防 野 橋 野 田 弼 田	和 孝 尚 伸 謙 俊 久 正 好 誠 一 彦 宗 博 達 十 喜 潤	美 子 文 一 吉 昭 仁 明 幸 喜 一 宗 一 英 雄 男 誠 潤